

授業科目	看護学概論	単位	1	時間	30	履修時期	H31年 1年次 1学期
設定理由	これから学んでいく多くの看護学の基礎として、看護と看護学の概要を理解する。 専門職としての看護と看護学は何かを理解し、看護学全般の概念をとらえ、看護の位置づけと役割の重要性を学ぶ。						
学習目標	看護の対象である人間を理解し、看護の本質を考えるために、看護の歴史的背景、看護の定義、職業および学問としての看護の位置づけについて学ぶ。 看護の対象としての人間・健康・看護を探究するとともに、看護活動の場における看護の機能と役割について理解を深め、看護学を学ぶ意義を認識する。						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の歴史的背景、看護の定義、看護と看護学の概要を理解する 2. 看護の対象の人間について多面的に理解し、看護の目的を学ぶ 3. 看護の視点から健康の概念について理解する 4. ナイチンゲール、ヘンダーソンの看護論を通して、看護の本質を理解する 5. 保健医療サービスを提供するシステムと、その中で機能する看護について理解する 6. 看護の機能と役割を認識し、具体的な看護業務について理解する 						
授業内容（講義ごとの内容）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護への導入 2. 看護の定義(看護の役割と機能) 3. 看護の継続性と情報共有(入院から在宅)と他職種との連携・協働 4. 看護の対象の理解(人間の成長発達、人間と社会、人間と環境、人間と健康) 5. 健康のとらえ方 生活者である人間の健康を専門的視点でみた健康とはなにか、 専門的視点でみた現象の意味(ナイチンゲール、ヘンダーソン理論の活用) 健康の関連要因、社会の変遷と健康観の変化 6. 国民の健康状態 人々の生活と健康に関する統計 7. 人間と健康、健康の法則:看護覚え書 8. 看護の提供者・拡がる看護の活動領域 看護および看護教育の変遷、看護活動の場の拡大(国際看護を含む)、 専門性の拡大(看護研究の意義も含む)、看護実践における看護技術の位置づけ 9. 看護における倫理、倫理綱領、事例検 10. 看護の提供のしくみ、看護を取り巻く保健医療システムと看護 11. 医療安全と医療の質の保証、看護業務の特徴、ヒヤリハット事例検討 					担当者(時間)	
						専任教員(30)	
						教員の連携と協力体制	
評価	筆記試験						
テキスト	看護学概論(医学書院) 看護覚え書き 看護であること・看護でないこと (現代社) 看護の基本となるもの(日本看護協会出版会)						
参考図書							
オフィスア	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 事前調整にて、質問・相談は随時受け付けます						
備考							

授業科目	看護倫理	単位	1	時間	15	履修時期	H31年度 2年次 1学期
設定理由	医療のめざましい進歩によって多大な恩恵がもたらされている一方、看護倫理に関する問題が増加している。日々の医療行為には、いつも倫理的問題が潜んでいると言っても過言ではない。倫理的問題は、患者を傷つける医療人の日々のなげない行動や言葉から、高度な医療に伴う問題までさまざまである。種々の看護倫理に関する問題をとりあげ、医療行為を行うにあたって、倫理(正直であること)、マナー(責任と思いやり)をもって患者に対応することが、看護者にとって最も基本の態度であることを学習する。						
学習目標	医療専門職に必要な倫理の基礎知識および看護職者としての役割について学ぶ。 1) 医療専門職に必要な倫理の基礎知識を理解する。 2) 看護の実践・教育・研究における倫理の重要性について理解する。 3) 看護実践における倫理的課題について考える。						
授業の概要	医療者は、患者・家族と向き合い、あるいは寄り添いつつ、医療・看護を進める際に、倫理的視点から自らの行為を理解し、とるべき道について考えることができる実践的知を備える必要がある。ことに、医師や看護師がチームとなって医療を進めることが求められる現在、看護師は、看護倫理を身につけると共に、医療者に共通の臨床倫理という営みを行う力を備える必要がある。本授業においては、これらについて講義および事例検討を通して学ぶ。						
授業内容(講義ことの内容)	1. 看護倫理とはなにか 2. 専門職としての倫理 3. 保健師助産師看護師法と倫理 4. 倫理的問題へのアプローチ 5. 看護研究の倫理 6. 看護場面における倫理(事例検討) ☆臓器移植をめぐる倫理的課題						担当者(時間)
							専任教員(13) 非常勤講師(2)
							教員の連携と協力体制
評価	筆記試験						
テキスト	看護倫理(医学書院) 看護学概論(医学書院)						
参考図書							
オフィスアワー	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 事前調整にて、質問・相談は随時受け付けます。						
備考							

授業科目	看護理論	単位	1	時間	15	履修時期	H31年度 2年次 1学期
設定理由	わが国にはたくさんの看護理論が諸外国、特にアメリカを中心に導入されている。看護理論は看護の見方・考え方の方向性を示し、看護実践や研究・教育・管理の理論的枠組みを提供する。理論についての一般的な概念や理論の流れを学んだ後に、看護理論家による代表的な看護理論をとりあげて学習する。看護理論とは何か、理論学習に必要な概念や、それぞれの理論家の看護の理論内容について講義および発表を組み合わせる。						
学習目標	看護の見方・考え方の基盤として看護理論全般について学習し、代表的な理論家の理論内容を看護実践へ活用する方法について理解する。 1) 看護理論を構成する概念について理解する。 2) 看護理論が出現した社会的背景から、代表的な理論家の理論内容を理解する。 3) 看護理論を実践へ活用する方法について理解する。 4) 看護理論を学習することにより、看護の見方・考え方の基礎を習得する。 5) 理論家の書物を講読・発表から、分析力・批判的思考力・発表能力などを養う。						
授業の概要	講義と自己学習、グループ学習や発表などを組み合わせて行う。授業に積極的に参加するには、看護文献だけでなく、全学共通教育科目や学科共通科目の内容や、看護に関連する他の領域の文献にも目をとおり、看護学や看護に活用する。提示してある書籍を熟読し、授業中の質議応答に積極的にかかわること。						
授業内容（講義ことの内容）	1 理論とは何か 1) 理論概説変遷 2) 理論の定義と関連する用語 3) 理論の成立過程と機能 4) 理論の歴史的背景と発展 5) 看護理論の主要となる概念 2. 代表的看護理論家とその主張の理解 ナイチンゲール トラベルビー H.E.ペブロー D.E.オレム C.ロイ ペナー 3. 看護の理論と実践との関連 1) 看護実践における理論活用の意義 2) 中範囲理論 看護アセスメントと援助に関する理論 病気・障害・人生の体験を説明する理論 危機・ストレス・不確かさの認知や対処に関する理論 行動変容・行動強化に関する理論 4. 理論看護実践への活用の実際					担当者(時間)	
						専任教員(15)	
						教員の連携と協力体制	
評価	筆記試験						
テキスト	看護学概論(医学書院) 看護実践に活かす中範囲理論(メヂカルフレンド社)						
参考図書	南 裕子他訳:看護理論集-より高度な看護実践のために、日本看護協会出版会。 アン・マリナー・トメイほか編著、都留伸子監訳、看護理論家とその業績、医学書院 城ヶ端初子監修、実践に活かす看護理論19、医学芸術社 小島操子監訳:看護モデルの分析、医学書院。						
オフィス	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 教務室にて調整します。						
備考							

授業科目	共通基本看護技術	単位	1	時間	15	履修時期	H31年 1年次 1学期
設定理由	看護活動を提供するための基礎となる技術を学ぶ。						
学習目標	看護の基本となる知識・技術を修得する。						
授業の概要							
授業内容 (講義ごとの内容)	1. 看護技術 1) 看護の基本と技術 ① 看護技術とは ② 看護技術の特徴 ③ 看護技術の基本原則						担当者(時間)
	2. 看護介入と安全・安楽 1) 看護技術の基本原則の優先順位 2) 看護技術の基盤としての安全・安楽						専任教員(15)
	3. コミュニケーション 1) コミュニケーションの成立 2) 効果的なコミュニケーションの実際 3) プロセスレコード						
	4. 科学的な思考と問題解決思考に基づく看護の決定 1) フィジカルアセスメントと 2) 看護過程						
	5. 学習支援 1) 看護における学習支援 2) 個人を対象とした学習支援 3) 集団を対象とした学習支援						
評価	筆記試験						
テキスト	専門Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 専門Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護がみえるvol.1 (メディックメディア)						
参考図書							
オフィスアワー	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など)						
備考							

授業科目	看護の中の物理	単位	1	時間	15	履修時期	H31年度 1年次 1学期
設定理由	人体や医療に関する物理現象と日常の身近な物理現象から自然界・人体のメカニズムの深さ・素晴らしさ・バランスのとれた美しさに興味を持ち、物理的思考を学ぶ。自然を深くみる目、自分で問題点を見つけようとする姿勢と物理的に解釈することを学ぶ						
学習目標	人体に関して生ずる物理現象を冷静に判断し、適切な対処ができる基礎的態度を身につける						
授業の概要							
授業内容（講義ごとの内容）	1. 看護の根拠と物理 1) てこの原理の人体への応用 2) 看護ボディメカニクス of 物理 3) 圧力 4) 呼吸器と吸引の物理 5) 点滴静脈注射の物理 6) 循環器の物理 7) 感覚器の物理 8) 体温制御の物理						担当者(時間)
							非常勤講師(15)
							教員の連携と協力体制
評価	筆記試験						
テキスト	看護学生のための物理学（医学書院）						
参考図書							
オフィスア	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など)						
備考							

授業科目	身体査定	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 1年次 1学期
設定理由	患者のケアを行うためには、患者を正しく診なければならない ここでは患者を正確に診るための知識や判断力を科学的根拠に基づいて学ぶ						
学習目標	患者を正確に診るために必要な身体査定法について、科学的根拠に基づいて習得する						
授業の概要	1.バイタルサイン(体温・呼吸・脈拍・血圧・意識)の意味を理解する 2.バイタルサインが正確に測定でき、援助につなげるよう、その値の意味を評価できる 3.フィジカルイグザミネーション、およびフィジカルアセスメントの目的と方法が理解できる						
授業内容(講義)との内容)	1. 看護とヘルスアセスメント	1) ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント・イグザミネーションの看護における目的 2) 五感を使って観察すること 3) 情報を共有するための伝え方					担当者(時間)
	2. 身体計測 3. バイタルサイン	3) 身体計測の基本 1) バイタルサインの仕組みと機能 2) 正しいバイタルサイン測定の方法と留意点 3) バイタルサイン測定の実際 : 体温、呼吸、脈拍、SPO2、血圧 4) 演習:バイタルサイン測定					専任教員(30)
	4. フィジカルアセスメント	フィジカルイグザミネーション 問診/視診/触診/打診/聴診 フィジカルアセスメントにおける場所の同定					教員の連携と協力体制
	1) 呼吸器系	1) アセスメントの目的と方法 2) 演習:フィジカルアセスメントの実際					
	2) 循環器系	1) アセスメントの目的と方法 2) 演習:フィジカルアセスメントの実際					
	3)乳房・腋窩/ 腹部	1) アセスメントの目的と方法 2) アセスメントの実際 3) 演習:腹部のフィジカルアセスメントの実際					
	4) 脳神経系/感覚器	1) アセスメントの目的と方法 2) アセスメントの実際					
	5) 筋骨格系	1) アセスメントの目的と方法 2) アセスメントの実際					
	5. 臨床推論	看護における臨床推論の進め方					
評価	筆記試験						
テキスト	専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I (医学書院) フィジカルアセスメントがみえる (メディックメディア)						
参考図書	フィジカルアセスメント完全ガイド (学研) フィジカルアセスメントガイドブック (医学書院) 看護過程に沿った対応看護 (学研)						
オフィスアワー	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 随時対応可能であれば、質問・相談を受けつけます						
備考	解剖生理学や看護の中の物理で学んだ知識が必要です。復習して講義に臨んでください また、技術習得が必要な科目です。積極的に演習や自主トレーニングを行ってください						

授業科目	環境を整える援助技術	単位	1	時間	30	履修時期	H31年 1年次1学期
設定理由	生活と環境は相互に影響しあうものであり、環境条件が病状に影響し、回復意欲に関わる。患者が安全で快適に入院生活を送れるよう病室の環境を整えることは大切なことである。また、集団生活の場でもある病室は、清潔を保つことで、自らが感染しない環境と、周囲の人に感染させない環境を整えなければならない。その環境を整える看護技術を学ぶ。						
学習目標	1. 療養生活の環境を構成する要素を理解し、病室・病床の環境のアセスメントと調整、ベッド周囲と病床の環境整備、ベッドメイキングの実際について学ぶ。 2. 感染成立の条件および院内感染防止の基本を知り、標準予防策・感染経路別予防策を学ぶ。 3. 洗浄・消毒・滅菌の実際、感染性廃棄物の取り扱い、無菌操作について学ぶ。						
授業の概要	グループワークを行い、原理原則から根拠に基づいた方法を考えだしていく。						
授業内容（講義ごとの内容）	1・2	快適な環境について考える					担当者（時間）
	3・4	生活環境の調整技術 1)療養生活の環境 2)病室環境のアセスメントと調整 3)病床環境のアセスメントと調整					専任教員(24) 看護師(6)
	5	演習：環境測定					教員の連携と協力体制
	6	感染防止の技術 1)感染防止の基礎知識 2)標準予防策 3)感染経路別防止策					
	7	ベッドメイキング・リネン交換					
	8・9	演習：ベッドメイキング					
	10・11	演習：シーツ交換					
	12・13	感染防止の技術 1)洗浄・消毒・滅菌 2)無菌操作 3)感染性廃棄物の取り扱い 4)感染防止における看護師の行動					
	14・15	技術チェック：シーツ交換 終了試験					
評価	筆記試験で評価する						
テキスト	専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 看護がみえる vol.1 (メディックメディア)						
参考図書	ベッドまわりの環境学 川口 孝泰 (医学書院) 看護場面における感染防止 (インターメディカ) 看護覚え書き (現代社)						
オフィスア	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 実習指導や出張などで不在の場合がありますが、それ以外は質問・相談を随時受けつけます。						
備考	6月上旬に技術チェックを行う。						

授業科目	活動と休息の援助技術	単位	1	時間	15	履修時期	H31年 1年次 1学期
設定理由	看護師は、患者がいまもっているセルフケア能力を低下させることなく、必要な安静をまもり、活動や休息を援助する責務があるため。						
学習目標	1. ボディメカニクス技術の基本について理解・説明できる 2. ベッド上での患者の体位変換の種類について理解・説明できる 3. 患者をベットから車いす、車いすからベットへ移乗させる援助の手順・ポイントが理解・説明でき、実施できる 4. 患者をベットからストレッチャー、ストレッチャーからベットへ移乗させる援助の手順・ポイントが理解・説明でき、実施できる 5. 患者を車いす、ストレッチャーで移送する際の留意点が理解・説明でき、実施できる 6. つえ歩行の患者の移動介助の援助の手順・ポイントが理解・説明でき、実施できる 7. 睡眠障害のおもな要因が理解でき、睡眠の援助方法を理解・説明できる						
授業の概要	「基本的活動の援助」は、体位、体位変換、移動、移乗・移送の4つの項目からなる。そのうち体位、体位変換の2項目は、ベッドや布団など、おもに病室内で行われる活動を介助する技術である。それに対して、移動、移乗・移送は、病床から外に活動範囲を広げる際に必要となる技術である。移動では、患者の歩行移動の援助技術について学ぶ。また、移乗・移送ではベットから車いすやストレッチャーなどの移送用具に患者を移し、それらを用いて患者を運ぶ技術を学習する。						
授業内容（講義ことの内容）	1回 姿勢を保ち・活動を整える援助 1) 姿勢・活動に関する基礎知識 2) 体位 3) ボディメカニクス 4) 姿勢・体位の援助に関する安全 2回 体位変換の実際（技術演習） 3回 移動・移乗の援助 1) 歩行介助 2) 杖、松葉つえ、歩行器 3) 車椅子、車椅子 4) ストレッチャー 4、5回 移動・移乗の援助の実際（演習） 2) 杖、松葉つえ、歩行器 3) 車椅子、車椅子 4) ストレッチャー 6回 睡眠と休息の援助 1) 睡眠・休息の基礎知識 2) 睡眠障害のアセスメント 7回 睡眠と休息の援助方法（グループワーク・講義） 8回 科目終了試験（1時間：45分）						担当者（時間）
							専任教員（15）
							教員の連携と協力体制
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 看護がみえる vol.1（メディックメディア）						
参考図書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学② 運動器（医学書院）						
オフィス	（担当講師との連絡相談・確認方法・時間など） 実習や出張等で不在の場合がありますが、それ以外は質問・相談を随時受け付けます。 授業開始時間を厳守します。						
備考	看護のなかの物理、解剖生理学の知識が必要です。予習・復習をして講義に臨んでください。 演習は、実習着を着用してください。実習着の準備が間に合わない場合、トレーニングウェアを準備すること。 授業スライドは、基本的に配布しません。授業内容は、各自がノートにまとめてください。						

授業科目	食事・栄養の援助技術	単位	1	時間	15	履修時期	H31年度 1年次 1学期
設定理由	食事は、生活活動のひとつであり、その社会の文化や経済、生活上の楽しみにつながり、また、それらが各人の食生活に対する行動の示し方が異なることを学び、援助につなげる						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての食事と栄養の意義を理解することができる 2. 患者の栄養状態および水分・電解質バランスのアセスメントが理解・説明できる 3. 摂食能力のアセスメントについて理解・説明できる 4. 医療施設で提供される食事の種類や特徴について理解・説明できる 5. 食事動作機能障害がある患者の食事援助の手順・ポイントが理解・説明でき、実施できる 6. 摂食嚥下訓練の種類と留意点が理解・説明でき、実施できる 7. 非経口的栄養摂取方法(胃管挿管の手順・経鼻胃カテーテルからの注入) 8. 中心静脈栄養法に伴う合併症や援助方法を理解・説明できる 						
授業の概要	人間にとっての食事の意味を考え、栄養状態のアセスメント方法や栄養機能障害をもつ人への援助方法について理解する「食事介助」と「嚥下訓練」「経管栄養」と「中心静脈栄養」に関する援助技術を学ぶ						
授業内容(講義ごとの内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食事援助の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント 2) 医療施設で提供される食事の種類と形態 2. 食事摂取の介助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 援助の基礎知識 2) 演習: 援助の実際 3. 摂食・嚥下訓練 <ol style="list-style-type: none"> 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際 4. 非経口的栄養摂取の援助 <ol style="list-style-type: none"> 1) 経管栄養法 2) 中心静脈栄養法 					担当者(時間)	
						専任教員(15)	
						教員の連携と協力体制	
評価	筆記試験						
テキスト	専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 看護がみえる vol.1,2 基礎看護技術 (メディックメディア)						
参考図書	専門基礎分野 解剖生理学 (医学書院) 写真でわかる高齢者ケア(インターメディカ)						
オフィスア	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 実習や出張、講義などで不在の場合がありますが、それ以外は質問・相談随時受け付けます						
備考	消化器系の解剖学、生理学で学んだことや 清潔・衣生活の援助技術の基礎知識と留意点を復習し、講義・演習に臨んでください						

授業科目	排泄の援助技術	単位	1	時間	15	履修時期	H31年度 1年次 2学期
設定理由	排泄は生命維持のために欠かすことができない生理的、基本的欲求である。しかし、看護の対象者は、治療や検査の必要から一時的に日常的な方法での排泄を制限されたり、疾患や障害によって通常の排泄行動が営めなくなったりして、看護師の援助を受ける患者の気持ちを考え、安全に気持ちよく安心して、またその人の持てる力を最大限発揮できるような排泄援助技術を学ぶ						
学習目標	1. 排泄の意義とメカニズム、アセスメントの方法を理解する 2. 自然排尿・排便の援助を学ぶ 3. 一時的導尿、持続的導尿、浣腸と摘便の方法を学ぶ						
授業の概要	グループワークや演習を行い、原理原則から根拠に基づいた方法を考えだしていく						
授業内容（講義ごとの内容）	1. 排泄に関する基礎知識 2. 自然排尿および自然排便の介助の基礎知識 3. 演習：自然排尿の介助の実際 4. 演習：自然排便の介助の実際 5. 排便・排尿を促す援助 1)便秘・下痢の種類と要因 2)浣腸 3)摘便 4)一時的導尿 5)持続的導尿 6. 演習：一時的導尿の実際 7. 演習：陰部洗浄					担当者（時間）	
						専任教員（15）	
						教員の連携と協力体制	
評価	筆記試験						
テキスト	専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 看護がみえる vol.1 ,2（メディックメディア）						
参考図書							
オフィスアワー	（担当講師との連絡相談・確認方法・時間など） 実習指導や出張などで不在の場合がありますが、それ以外は質問・相談随時受け付けます						
備考							

授業科目	清潔・衣生活の援助技術	単位	1	時間	30	履修時期	H31年 1年次 1・2学期
設定理由	自分の身体や身につけるものを清潔に保つこと、自分の好きな衣服や装飾品を身にまとい、好みの方法で身づくろいすることは、人間にとって基本的な欲求のひとつである。健康障害や加齢のため、あるいは治療上の制約のため、自分自身で身体を清潔に保つことや衣服を着替えることが困難な状況にある人たちへの基本的な援助技術を学ぶ。						
学習目標	1. 清潔・衣生活の意義や目的、援助におけるアセスメントの視点を理解する。 2. 清潔・衣生活の援助に必要な基本的知識を理解する。 3. 清潔・衣生活に関する基本的な援助の方法を習得する。						
授業の概要	清潔・衣生活に関する基礎知識を視覚教材などで学習した後、患者役割・看護師役割をとりながら基本的な技術を演習し、体験的に学習する。						
授業内容（講義ことの内容）	1. 清潔と衣生活の援助						担当者（時間）
	1) 清潔の意義 2) 患者の状態に応じた援助の決定と留意点 3) 病床での衣生活の援助						専任教員(15)
	2. 援助の実際						専任教員(15)
	1) 全身清拭 2) 病衣の交換 3) 全身浴(入浴、シャワー浴) 4) 部分浴(手浴・足浴、爪切り) 5) 洗髪(ケリーパッド法) 6) 洗面、ひげそり、口腔ケア ※ 基本的には演習を行うが、全身清拭・洗髪については技術チェックを行う						教員の連携と協力体制 技術演習、技術チェック時は複数の教員で指導する
評価	筆記試験で評価する						
テキスト	・専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) ・看護がみえる vo.1(メディクメディア)						
参考図書	・臨地実習のための看護技術指導ガイドライン(学研)竹尾恵子 ・根拠と写真で学ぶ看護技術1 生活行動を支える援助						
オフィスアワー	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 質問・相談がある場合は、事前に時間調整して随時対応します。						
備考	・技術の習得においては、正しい知識と手技で繰り返し自己学習やグループ演習を行い到達度を高めて下さい。 ・授業以外の空き時間を活用して、グループ・個人で話し合いや演習を行い、学習を主体的に進めていきましょう。 ・授業時間外の技術演習で教員の指導を希望する場合や実技評価を受ける時は、事前にできるだけ早く日時を申し出て調整しましょう。 ※清潔や更衣実技演習を計画し、基礎実習Ⅰ－②までに充実した知識と技術が習得できるようにしましょう。						

授業科目	与薬に伴う援助技術	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 1年次 2学期
設定理由	医薬品の剤形や投与方法は多岐にわたっており、さまざまな知識と技術が求められるため。						
学習目標	1, 薬剤の保管・管理上の注意点が理解・説明できる 2, とくに副作用に注意すべき薬剤とその副作用について理解・説明できる 3, 経口薬・吸入薬・点眼薬・点鼻薬の特徴と与薬の援助の手順・ポイントが理解・説明できる 4, 経皮吸収剤の特徴と与薬の援助の手順・ポイントが理解・説明できる 5, 直腸内与薬の特徴と与薬の援助の手順・ポイントが理解・説明できる 6, 皮下・皮内・筋肉内・静脈内注射の実施手順・留意点が理解でき、実施できる 7, 点滴静脈注射の実施手順と留意点が理解でき・説明できる。また、輸液速度の調整方法が理解・説明できる						
授業の概要	看護師の役割に診療の補助業務があり、多くの診療に伴う技術の習得が求められる。本科目では、安全・安楽に患者が与薬を受けるために必要な技術の基本を学ぶ。						
授業内容（講義ごとの内容）	1回 与薬に関する基礎知識 1)薬事法と日本薬局方 2)投与経路 3)与薬における看護師の責任と役割 2回 与薬の適応と原則① 1)内服 2)口腔内与薬 3)直腸内与薬法 3回 与薬の適応と原則② 1)吸入 2)点眼 3)点鼻 4)塗布 4回 注射の適応と原則 1)注射の基礎知識 2)注射方法と種類 3)注射剤の取り扱い 4)注射器と注射針 5回 注射器の取り扱いと薬液の吸い上げ（講義） 6回 注射器の取り扱いと薬液の吸い上げ（演習） 7回 注射法の実際（講義） 1)皮下注射 2)皮内注射 3)筋肉内注射 8・9回 筋肉内注射の実際（演習） 10回 注射法の実際（講義） 1)静脈内注射（技術演習） 2)点滴静脈内注射の管理 11・12回 点滴静脈内注射の実際（演習） 13回 注射法の実際（講義） 1)中心静脈カテーテル 2)輸液ポンプ・シリンジポンプ 14回 輸液ポンプ・シリンジポンプの実際（演習） 15回 科目のまとめ学習/科目終了試験						担当者（時間） 専任教員（30）
							教員の連携と協力体制 「注射器の取り扱いと薬液の吸い上げ」「筋肉内注射」「点滴静脈内注射」の演習には、5～6名の教員がサポートに入って演習を進める 「輸液ポンプ・シリンジポンプ」の演習には1名の教員がサポートに入って演習を進める
評価	筆記試験						
テキスト	専門Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 看護がみえる vol.2（メディックメディア）						
参考図書							
オフィスアワー	（担当講師との連絡相談・確認方法・時間など）						
備考	解剖生理学、看護の中の物理、薬理学の知識が必要になります。予習・復習をして講義に臨んでください。注射針を使用しますので、事故を起こさないように十分留意して臨んでください。注射針の使用は安全のために教員のもとで行います。そのため、自主的に時間外で演習を行うことが難しい状況となりますので、講義の時間を有効に活用してください。						

授業科目	検査・処置に伴う援助技術	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 2年次 1学期
設定理由	医師が行う診療の介助やそれに伴う対象への援助、及び医師の指示に従って看護師が実施する行為としての技術を学ぶ。						
学習目標	患者が安全・安心して検査・治療が受けられるように援助するための方法を理解する。						
授業の概要	既習の解剖・生理学を根拠に看護技術を理解し、演習を通して技術を習得する。						
授業内容 (講義ごとの内容)	1. 検査・処置における援助 1) 看護師の役割 2) 検査・処置の介助に関する基礎知識 2. 生体モニタリング検査・処置の看護 3. 尿・便・喀痰検査の介助 4. 穿刺の知識と介助 5. 内視鏡検査時の看護 6. 包帯法(演習) 7. 真空採血管による採血方法の実際(演習) 8. 褥瘡予防(講義) 1) 褥瘡予防の基礎知識 2) 褥瘡予防の援助(演習) 体位変換 褥瘡の処置方法 9. 滅菌材料の取り扱い(演習)						担当者(時間)
							専任教員(24) 看護師(6)
評価	筆記試験						
テキスト	専門Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 (医学書院) 看護技術がみえる(メディクメディア)						
参考図書							
オフィスアワー	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など)						
備考	解剖生理学、環境を整える援助技術(滅菌物の取り扱い)、活動と休息の援助技術(体位変換)の知識が必要です。復習をして講義に臨んでください。						

授業科目	生命活動を支える援助技術	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 1年次 2学期	
設定理由	呼吸・循環などの生体機能は、人間が生命活動を維持する上で重要となる。看護は健康な生活の維持・向上が目的であることから、健康障害によりその維持が困難になった場合には指導や看護技術の提供が必要となる							
学習目標	呼吸・循環などの生体機能への機能補助技術の必要性と方法を理解する							
授業の概要	呼吸・循環の状態をアセスメントし、機能の維持・改善のための方法を学ぶ							
授業内容 (講義ごとの内容)	1. 呼吸・循環状態のアセスメントの必要性と方法						担当者(時間)	
	2. 酸素吸入療法、低侵襲排痰ケアの理論と方法						専任教員(20) 専任教員(10)	
	3. 演習:低侵襲排痰ケアの実際							
	4. 演習:酸素吸入療法の実際							
	5. 自発呼吸と人工呼吸の違い、人工呼吸療法							
	6. 気道加湿法と口鼻腔・気管内吸引の理論と方法							
	7. 8. 演習:口鼻腔・気管内吸引の実際							
	9. 低圧持続吸引の仕組みと管理						教員の連携と協力体制	
	10. 体温調整の必要な人の看護						演習時は他教員に協力要請	
	11. 演習:温・冷罨法							
	12. 輸血療法と看護							
	13. 14. 演習:止血法・一次救命処置							
評価	筆記試験							
テキスト	専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 専門基礎 解剖生理学(医学書院)、専門Ⅱ 成人看護学②呼吸器(医学書院) 専門分野Ⅱ 成人看護学③循環器(医学書院)、専門分野Ⅱ 成人看護学⑦脳・神経看護がみえる vol.1.2(メディックメディア)							
参考図書								
オフィスアワー	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 実習や出張で不在の時や会議で対応できない時がありますが、それ以外の時間はできるだけ対応します 質問や相談がある場合は、事前に申し出てくださいと時間調整しやすいです							
備考	解剖生理学で学んだ知識が必要です。必ず復習して講義に臨んで下さい 演習の時は準備や後片付けを教員と学生で行います。前日に準備する場合があります							

授業科目	看護実践方法論	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 1年次 2学期
設定理由	看護の日常的で実際的な実践の形態は、問題解決的思考にもとづく看護過程の展開という考え方によって理解することが有効である。ここでは、対象の健康問題を系統だてて、科学的に解決するための方法を学ぶ。						
学習目標	問題志向型システムとしての看護過程のステップを理解する。						
授業の概要	看護過程の一連の流れを学生が実践的に思考しながら進めるように個人演習を中心に進む。(グループワークあり) 実習記録用紙とのリンクをはかり、スムーズな基礎看護学実習Ⅱへの導入とする						
授業内容(講義ごとの内容)	1. 看護過程とは 1) 看護過程の対象とその基本構造, アセスメントツール、ヘンダーソンニード論 2) 問題志向型システムとしての看護過程 3) 看護過程における情報、関連図 4) 看護問題の要件と守備範囲 2. 看護過程の展開 1) アセスメント 2) 看護問題の明確化 3) 看護計画の立案 4) 看護介入の実施 5) 評価 3. 看護診断と看護過程 1) 看護診断の種類 2) 看護師と看護診断 3) 共同問題 4) 標準看護計画 4. 看護記録、クリティカルパス	担当者(時間)		専任教員(30)			
		教員の連携と協力体制					
評価	筆記試験						
テキスト	専門Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術 1 (医学書院) ヘンダーソン看護感に基づく看護過程 第4版 (ヌーベルヒロカワ) ヘンダーソンの基本的看護に関する問題リスト 第4版 ヌーベルヒロカワ 看護の基本となるもの (日本看護協会)						
参考図書	疾患別看護過程の展開 (学研) 症状別看護過程の展開 (学研)						
オフィスアワー	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 教務室在室中には17時まで対応します						
備考							

授業科目	看護研究	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 2年次 2学期
設定理由	看護研究の意義、研究の倫理、ならびに研究方法論について、実践を通して理解を深めるとともに、物事について深く考えたり調べたりすることで探究心を養い、研究的態度を身につける。また、自らの看護実践を振り返ることで自己の看護観を高める。						
学習目標	1. 看護研究の意義と研究方法について理解する 2. 看護研究における文献の活用方法を理解する 3. これまでの学習を通して芽生えた問題意識を研究テーマへと発展させる 4. 受け持ち事例の看護過程の展開について、論文作成、成果発表までの一連の研究のプロセスを体験する						
授業の概要	看護に関する関心のあるテーマを見つけ、研究計画書に沿って論文作成のプロセスを体験的に学ぶ。						
授業内容（講義ごとの内容）	1. 学習目標・学習内容・評価方法の説明 研究の種類と特徴 ・研究の定義 ・看護実践と看護研究の関連 ・研究疑問と研究デザイン ・量的・質的研究のアプローチの違い 2. データ収集 観察法によるデータ収集 質問法によるデータ収集 質問紙、変数、尺度の種類と特徴 面接法の種類と特徴 3. 文献検索の方法 ・文献検討（検索）の目的 ・文献の種類（一次文献・二次文献） ・文献検索の方法（Web検索） 4. 5. 研究における倫理 研究計画書 ・研究における倫理的配慮 ・研究計画書の構成内容 6. ケーススタディの進め方 ・論文作成 ケーススタディの意義 ・論文および抄録の構成内容と書き方 ※卒業論文を用いて説明 7. 論文クリティーク 課題：卒業論文1題 8～11. ケーススタディ発表にむけてのオリエンテーション 発表準備 11～14. ケーススタディ発表会 15. ケーススタディ提出記録のまとめ 筆記試験						担当者（時間） 専任教員（30）
							教員の連携と協力体制 論文作成の指導は、 老年看護学実習Ⅱの 実習担当教員
評価	筆記試験（50％） ケーススタディへの取り組みおよび論文作成過程とその発表（50％）						
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究（医学書院） 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方（照林社）						
参考図書							
オフィス	（担当講師との連絡相談・確認方法・時間など） 実習や出張等で不在の場合がありますが、それ以外は質問・相談を受け付けます。 研究指導の面接は、担当指導教員に事前にアポイントメントをとってください。						
備考	看護の実践を通して課題を探し、ケーススタディをすすめていきます。 研究テーマは指導教員と相談の上、実施可能なものにしてください。						

授業科目	看護研究演習	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 3年次 1～2学期
設定理由	卒業研究を通して、自己の看護観を見つめる機会とする 論文作成を通して自己の看護的体験を論理的に記述することができる能力を養う						
学習目標	看護を追求していく姿勢を養う 自己の看護観を高める						
授業の概要	目的 看護実践を高めるための研究的態度を養う 自分の行いたい看護が見いだせる						
授業内容（講義ことの内容）	3年次前期の病棟実習において受け持った事例について看護過程展開実践について論文作成から抄録作成および発表までを学習する(卒業論文 ケーススタディ) 目標 1. 受け持ち事例の看護過程展開を行う 2. 看護の実践計画・内容・評価を研究対象として分析・評価することができる 3. 看護実践の対象との相互関係をふりかえり、自分の行いたい看護を考えることができる 4. 文献や社会資源を活用し、論文をまとめることができる 5. 看護研究の成果を発表し合い、看護の質の向上への課題を明確にするためのディスカッション 6. 看護研究を卒業論文として完成することができる						担当者(時間)
							専任教員
							教員の連携と協力体制
							研究指導担当教員
評価	研究論文及び研究発表をもって評価する。途中の取り組み状況、提出状況も評価対象とする						
テキスト	・系統看護学講座 別巻 看護研究 (医学書院) ・看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 (照林社)						
参考図書	専門 I 基礎看護学1 看護学概論 (医学書院)						
オフィスア	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 学生は研究指導担当教員とアポイントをとりながら進める						
備考							

授業科目	基礎看護学実習 I (I-1 療養環境の理解・I-2 日常生活の援助)	単位	1	時間	45 I-1(10)・I-2(35)	履修時期	H31年度 1年次 1学期～2学期
設定理由	基礎看護学実習は臨床の場の対象(患者)に対して、講義や演習で習得した基礎的知識・技術・態度を統合して看護活動を展開する初めての実習である。看護の実際を体験することによって、看護の場と対象者を総合的に理解し、看護学を学ぶ動機づけを図る。						
学習目標	1. 療養環境および病院の構造・病床環境や看護体制・看護の役割の実際を知る 2. これまで学習した知識や基本的な看護技術を統合しながら、対象の個別性に合わせた日常生活の援助を実践する						
授業の概要	基礎看護学実習 I-1は見学実習 (2日間) 基礎看護学実習 I-2は日常生活への援助が必要な患者を一人受け持つ (5日間)						
授業内容	基礎看護学実習 I-1 1. 病院の役割と機能、概要 2. 病棟の概要 3. 入院患者の療養環境 4. 医療チームにおける看護師の活動の実際 5. 患者とのコミュニケーション 基礎看護学実習 I-2 1. 日常生活行動の状況の把握 2. 日常生活の援助の必要性の判断 3. 目的・効果を考えた援助計画の立案 4. 看護技術の基本的構成要素(ホテイメカニクス、作業効率と作業の組立、清潔と不潔、経済性、安全性、個別性、反応の観察と対応、説明)をふまえた援助の実施 5. 実施した援助についての評価 6. 援助計画の修正 ※ 援助の実施は実習指導者・教員の助言、指導のもと行う。						担当者(時間) 専任教員(45)
							教員の連携と協力体制
							各病棟の実習担当教員
評価	基礎看護学実習 I 評価表に従い、実習目標への到達度、実習状況(出席状況・実習態度)、実習記録物の提出等について総合的に評価する。						
テキスト	基礎看護学の授業で使用したテキスト						
参考図書							
オフィスアワー	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 会議や出張等で実習病棟へ行けない場合は、随時連絡します。それ以外は実習時間にかかわらず質問・相談を受け付けます。						
備考	実習までに学習した専門知識や基本的な看護技術をしっかり復習し、積極的に実習に取り組んでください。体験内容の言語化を通して、学習内容の理解を深め、実践と理論を統合していきましょう。実習期間中1日も欠席することのないように、体調管理をしっかり行ってください。						

授業科目	基礎看護学実習Ⅱ	単位	2	時間	90	履修時期	H31年 1年次 2学期
設定理由	基礎看護学実習Ⅰに続く実習として、受け持ち患者の入院、疾病・治療による日常生活の変化や心理状態について把握し、対象のニーズに基づいた看護ケアのプロセスを踏むことによって「看護援助」についての考え方を深める。						
学習目標	看護の対象を身体的・精神的・社会的存在として理解し、入院状況下にある人々の健康問題(看護上の問題)を解決するための看護過程の展開技術を学ぶ。						
授業の概要	患者を一人受け持ち、生活場面と診療場面へのかかわりを通して対象のニーズを捉え、個別的な看護の必要性と援助方法を看護過程のステップをふみながら学ぶ。						
授業内容	<p>ヘンダーソンの看護理論を用いた看護過程の展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報収集 2. 情報の整理と解釈 3. 看護問題の明確化 4. 看護目標の設定(長期目標・短期目標) 5. 看護計画の立案 6. 看護計画にもとづく実践、および実践の評価 7. 看護計画の修正 <p>※ 患者を総合的に理解し、援助を必要とすることがらを判断して、個別的・計画的な看護を行う。必要と考えた援助の優先順位を考え、看護目標を設定して具体的な計画を立てる。実践は実習指導者・教員の助言、指導のもと行う。</p>						担当者(時間)
							専任教員(90)
							教員の連携と協力体制
	各病棟の実習担当教員						
評価	基礎看護学実習Ⅱ評価表に従い、実習目標への到達度、実習状況(出席状況・実習態度)、実習記録物の提出等について総合的に評価する。						
テキスト	基礎看護学の授業で使用したテキスト						
参考図書							
オフィス	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 会議や出張等で実習病棟へ行けない場合は、随時連絡します。それ以外は実習時間にかかわらず質問・相談を受け付けます。						
備考	体験内容の言語化を通して、学習内容の理解を深め、実践と理論を統合していきましょう。学習した内容が統合・活用できるように、実技演習した基本的技術をさまざまな条件をもった対象を想定して応用できるように練習しておきましょう。3週間にわたる実習なので特に体調管理に心がけてください。						